

図2-9-0-1 あそび時間の変化

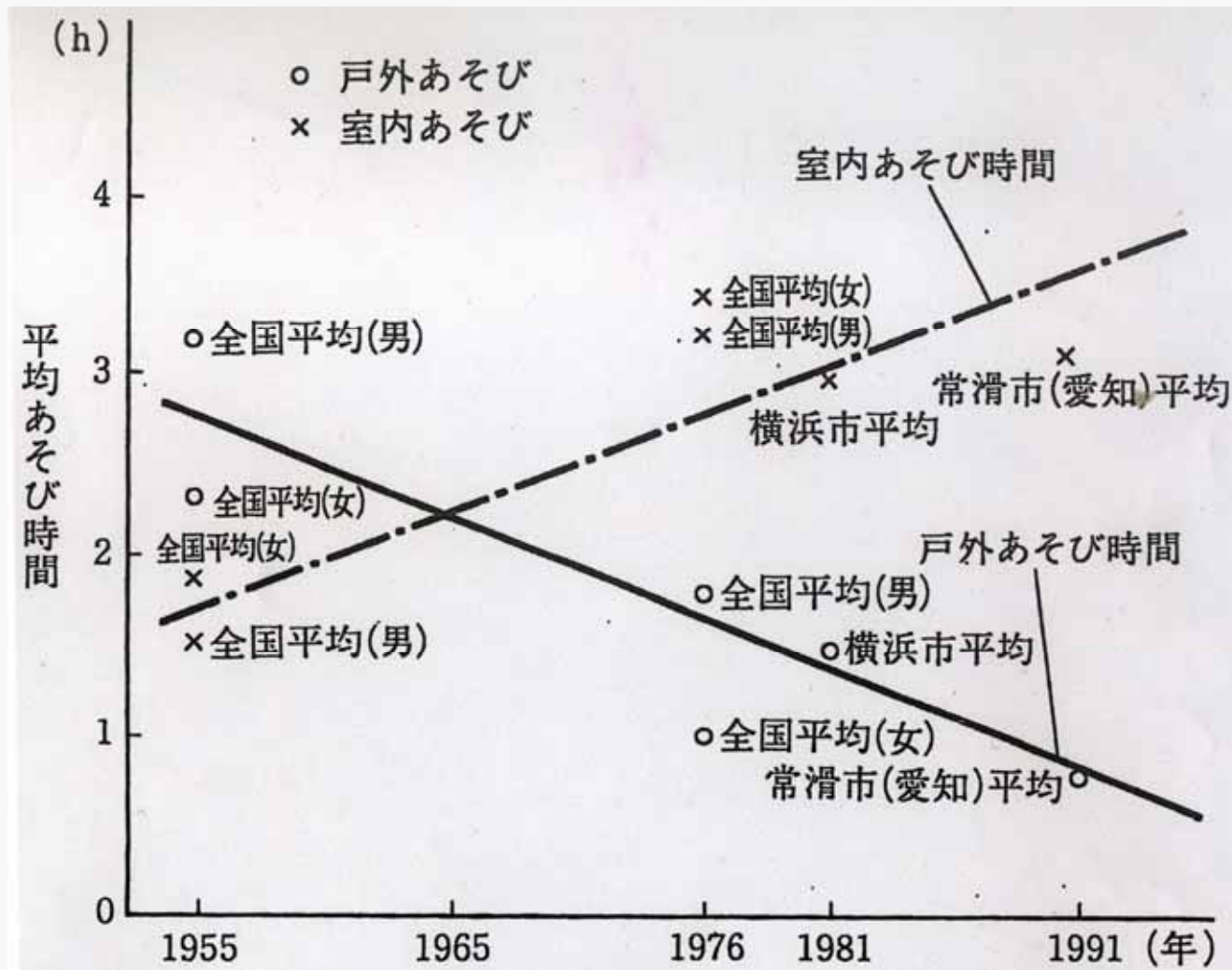
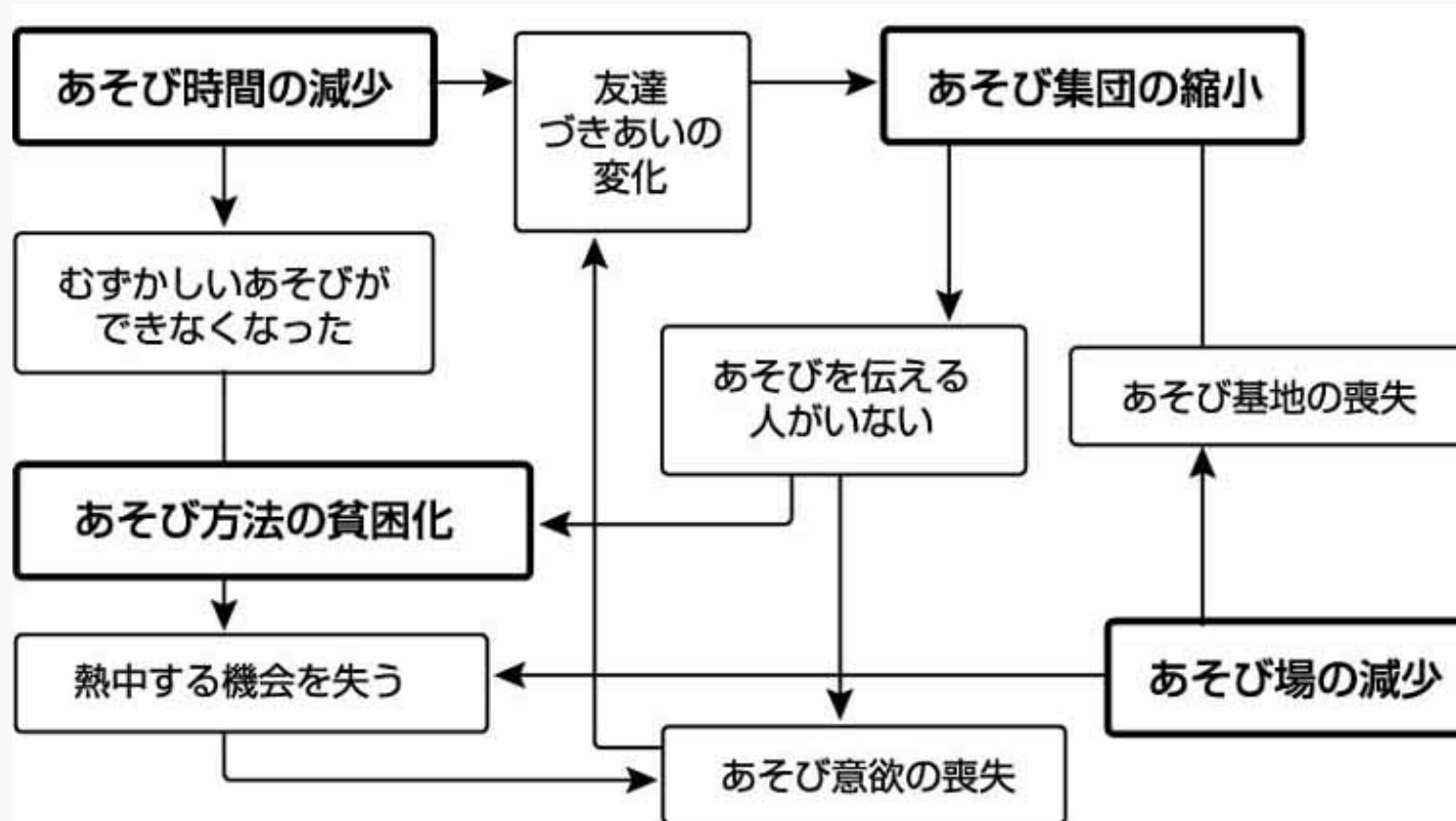


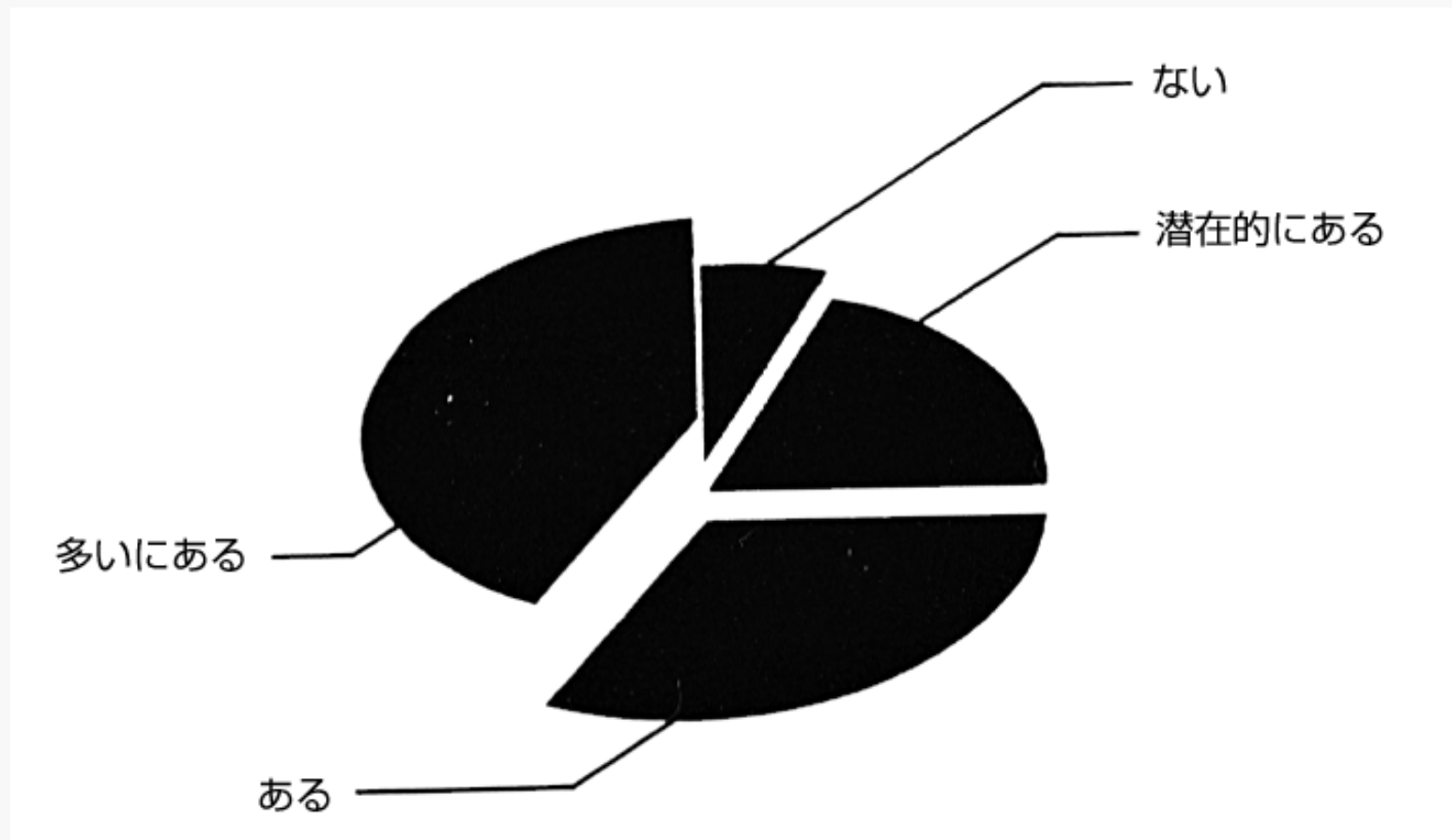
図1-7-0-1 あそび環境の悪化の循環



※ —→ は、影響を与えるものから与えられるものへ

図2-20-0)-1 こどもの頃の住まいやあそび環境

そして空間体験と現在の自分の仕事の関係度



本報告書をとりまとめるに至った背景

今なすべきこと

我が国の子どもの状況を改善するには、成育環境の4つの要素

「空間(遊び場の減少など)」、

「方法(電子メディアとの不適切な接触など)」、

「時間(生活の夜型化など)」、

「コミュニティ(異年齢集団との接触の減少など)」

の悪化の循環を断ち、成育環境の質を改善することが必要。

そのためには、子どもの成育という視点に立ち、従来の個別的的政策を再検討し、複合的・総合的に連携する戦略の構築が必要。

提言のポイント

総合的戦略

国が、「子どもに優しい国づくり・子どもを元気にする国づくり」を宣言した上で、

我が国の政策すべてに子どもの成育の視点を取り入れる。

国民運動として子ども成育の意識を喚起する。

提言のポイント

行動的戦略

子どもの成育空間の再整備

子どもの生活の身近なところに居場所、遊び場など多様な経験ができる場の再整備(子ども成育の視点からのまちづくり、遊ぶ空間のある道づくり、子育ての視点を持つ住宅の開発、地域の子育て環境のマスタープランの作成、長期自然体験、共同体験のための環境づくり、プレイパークの推進など)

子どもの成育のための道具や方法の適切な使用・学習

子どもの文化や様々な機会の拡大
(電子メディアの適切な使用、外遊びの方法、自然遊びの方法の学習と継承など)

子どもの成育時間の健全化

子どもの生活時間の健全化、親の生活習慣の健全化、非日常体験をすることができる時間の獲得

子どもの成育コミュニティの再構築

地域・学校・家庭の連携と子育て支援体制の確立(縮小化、同年齢化した子どもの仲間集団の再構築、学社融合型の学校の推進、次世代育成支援の住民会議など)

提言のポイント

子どもの成育空間の再整備

- ア 子ども成育の視点からのまちづくり（国土交通省）
- イ 子育ての視点を持つ住宅の開発（国土交通省・厚生労働省）
- ウ 子育てコレクティブハウスの建設促進（国土交通省・厚生労働省）
- エ 中庭型中低層集合住宅の普及（国土交通省・厚生労働省）
- オ 子どもの家の前に遊ぶ空間のある道づくり（国土交通省・警察庁）
- カ 保育環境の整備：保育所の園庭とゆとりあるスペースの確保（厚生労働省）
- キ 地域の子育て環境マスタープランの作成（文部科学省・厚生労働省・国土交通省・環境省）
- ク 駐車場地下化による地上の自然の空間と遊びの場の確保（国土交通省）
- ケ 自然体験・共同体験と遊びのための環境づくり（環境省・国土交通省）
- コ 身近な自然体験の場としての校庭・園庭の整備（文部科学省・環境省）
- サ 長期自然体験・共同体験のための環境づくり
（文部科学省・農林水産省・国土交通省・環境省）
- シ 都市型自然体験施設の整備（厚生労働省・文部科学省）
- ス プレイパークの推進（厚生労働省・国土交通省）
- セ 緑地の保全と活用（国土交通省・環境省）
- ソ 地域ごとに子育て・親育ての中核となるセンター（ファミリーセンター〔仮称〕）の設置
（厚生労働省・国土交通省）

4-5 中低層集合住宅のメリット・高層居住のメリット

- 1) 吉田沙織・仙田満・山崎純・井上寿・中山豊：計画集合住宅地における遊び空間の展開に関する研究 - 葛西クリーンタウンを事例として - , 日本建築学会大会学術論文梗概集 , E-2 , pp103-104 , 2005

高密な集合住宅地での調査であるが、同時期に行った戸建中心の住宅地の調査に比べて外あそびの時間が長い。また22階建の高層住居では全く見られなかったが、13、4階以下であれば、住棟によって遊びの方法が異なっており、住棟の共用部をうまく使って立体的なあそびを展開していた。戸建住宅地に比べて、子どもの密度が高いことが外遊びを喚起している可能性が示唆される。

- 2) 織田正昭：高層マンション子育ての危険 , メタモル出版 , 2005

高層集合住宅団地の幼児を対象として発達状況について調査を行っており、5階以下の低層階に住む子どもの14階以上の高層階に住む子どもとでは、生活習慣の自立において大きな差異があるという結果が出ている。

例えば、高層階に住む子どもは、排便、手洗い、衣服の着脱、靴の着脱などが自分でできる子どもの比率が有意に低い、などである。外に出るためにはエレベータの使用が必要になり、買い物など外に出る回数も少なくなる。また小さな子どもはエレベータの操作は難しい。

このようにあまり外に出ないことによる母子密着型の生活がその一因であることを指摘している。

この発達の遅れはずっと続くものではないが、潜在的な影響は残るのではないかとしている。

4-4 コレクティブハウス

コレクティブハウスは、北欧で生まれ、欧米では一般的な居住スタイルである。プライベートの住戸は通常通り確保しながら、その他に共有のリビング・キッチン・ランドリー・ライブラリー・キッズルーム等の空間を持つ集合住宅のことをいう。時には共に食事をしたり、生活の一部を共有したりすることで時間的・精神的・経済的なメリットを享受することができ、そのような生活を通して、子どもが多くの緩やかなコミュニティの中で育つ機会が形成される。



4-8 山村留学

2) 仙田満：子どもとあそび，岩波新書，1992

疎開を体験した人に話を聞いた際、疎開が良かったと評価する人の多さを指摘している。疎開での体験を「自然との触れ合い」、「田舎での生活体験」、「異文化との出会い」の3つの体験に分けることができ、そしてそれらを体験するには四季を通じて自然を体験すること、そして生活文化を体験することが必要で、それには最低1年は必要であるとしている。ここで山村留学について、「すでに山村留学も行われているが、山の子どもたちと、町の子どもたちの交換留学制度、あるいは小学校のときに1年ぐらい全寮制で田舎の過疎地の小学校で授業を受けるなどの方法で、子供たちが異なる文化、異なる空間、異なる生活を体験できる機会がつかれないだろうか」と論じている。

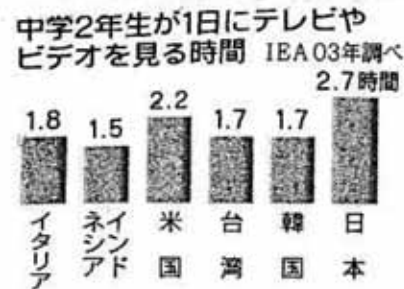
「自然環境と通しての教育・生活施設に関する研究 - 山村留学校、小規模特認校、健康学園を事例として - 」(安部剛史/指導教官：仙田満)では、長期の農山漁村への留学は貴重な自然や異文化体験の機会となっていること、また都市に多い喘息や肥満などの疾患についても症状改善効果なども出ていることなどの報告がされている。

提言のポイント

子どもの成育のための道具や方法の適切な使用・学習

- ア 電子メディアと子どもの適切な接触（総務省・文部科学省・経済産業省）
- イ 電子メディアの映像の適切化（総務省・文部科学省・経済産業省）
- ウ 親の電子メディアとの適切な接触（総務省・文部科学省・経済産業省）
- エ 外遊びの方法の学習と継承（国土交通省・厚生労働省・文部科学省）
- オ 自然遊びの方法の学習と継承（環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省）

アレ同小はを過致しや旦 しで内 一髪不くる



日本の中学生はテレビ漬け。国際教育到達度評価学会（IEA）本部アムステルダム（IEA）本部アムステルダム）が実施した03年国際数学・理科教育動向調査によると、中学2年生がテレビやビデオに費やすのは1日2.7時間。調査した46カ国・地域中最多

日本の中学生の視聴時間

で、平均より0・8時間多い。宿題をする時間は一日1時間と最も少なく、家の手伝いは0・6時間にすぎない。テレビの影響で、宿題や手伝いがおろそかになっている。テレビなどを長時間見る子は、友達への共感が薄いとい

のを見ると腹がたつ」と答えたが、6時間以上接するグループは33・3%だった。「友達とうまくやる自信がある」は、接触ゼロの子が78・6%だったが、6時間以上接触は43・6%にすぎなかった。

「子どもとメディア」代表

IEA調査 46カ国・地域で最長

う調査もある。NPO法人「子どもとメディア」（福岡市）は、テレビやゲーム、携帯電話などのメディアと一日に6時間以上接する小学生と、全く接しない小学生のグループを比べ、影響を調べた。

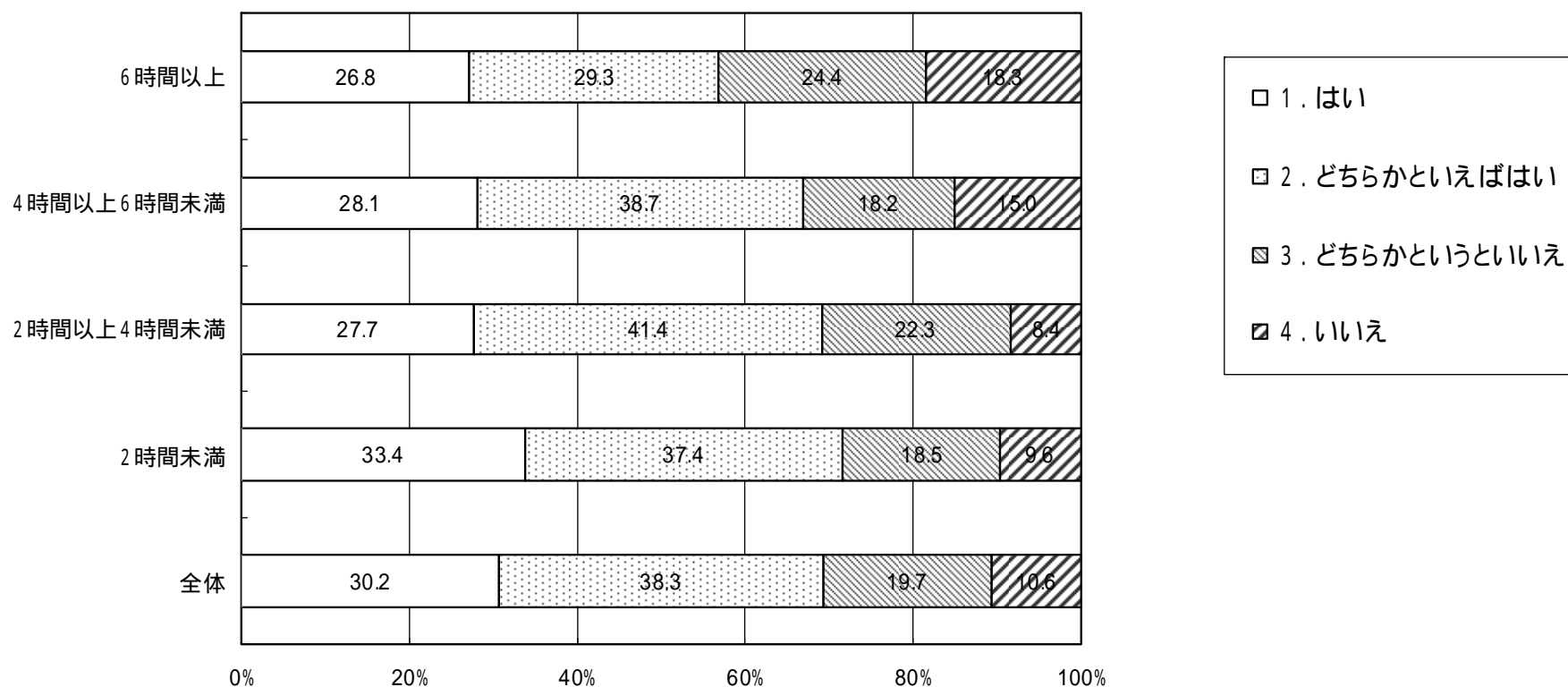
全く接しない子は64・3%が「友達がいじめられている」

理事の清川輝基さんは「子どもとのテレビ依存は親の育児放棄が一因。北欧では親が乳幼児期から子どもとの時間を大切に、一緒に外遊びや運動をする。日本でも、親子が生き生き動く時間と場所を、社会的に保障すべきだ」と話している。

【山本紀子】

た結果を記入して学校にそろって参加できる利点だ。幾江吾四郎交夏は「見こみ」でなく「言がよ

図1-4-13)-1 総接触時間（平日）と自分が好きか



13) NPO法人子どもとメディア：文部科学省「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」委託事業，「子どものメディア接触と心身の発達に関わる調査・研究」2005年度事業報告書，2006

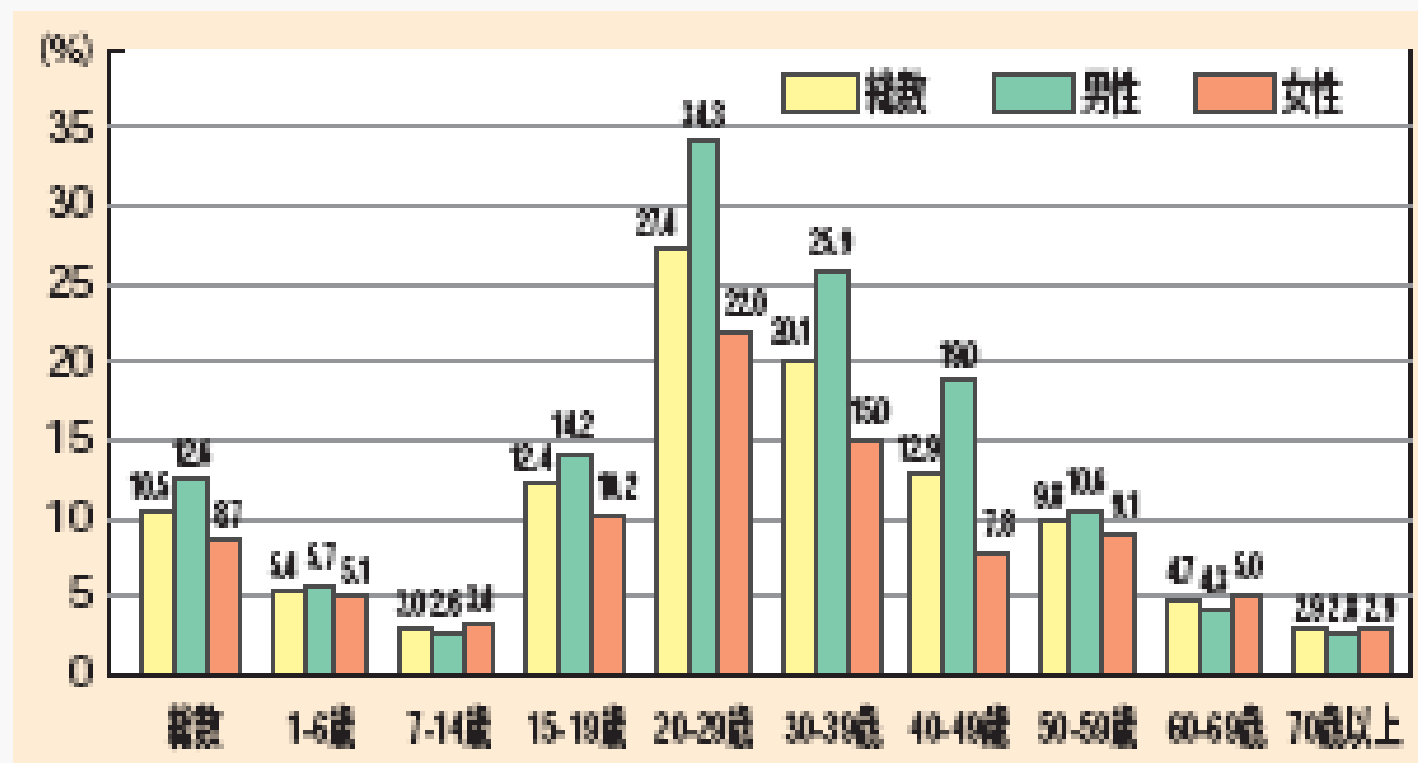
平日のメディア接触時間が長いほど、自己肯定感においては「自分を好きでない割合が高くなり」「自分には良いところがないと思う割合が高い」傾向が強くなることを示している。

提言のポイント

子どもの成育時間の健全化

- ア 子どもの生活時間の健全化（厚生労働省・文部科学省）
- イ 親の生活習慣改善の運動（厚生労働省・文部科学省）
- ウ 労働時間の適正化（厚生労働省）
- エ 非日常的体験の時間の獲得
（総務省・文部科学省・国土交通省・環境省・経済産業省）

図2-2-4)-1 朝食の欠食率（1歳以上）



資料:厚生労働省

「国民健康・栄養調査」2004年

注:「欠食」とは、調査日において

「菓子・果物のみ」、「錠剤などのみ」、「何も食べない」に該当した場合

提言のポイント

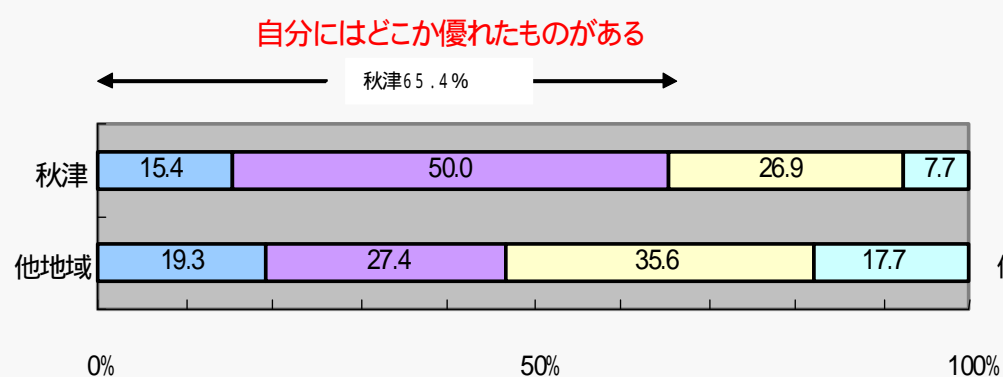
子どもの成育コミュニティの再構築

- ア 多年齢交流の促進（文部科学省・厚生労働省・国土交通省）
- イ 寄宿制の評価（文部科学省・厚生労働省）
- ウ 施設における人的・社会的環境の整備（厚生労働省・国土交通省）
- エ 入院する子どものための人的・環境的アメニティの整備
（厚生労働省・文部科学省）
- オ 禁煙の徹底（厚生労働省）
- カ 食育の推進（厚生労働省・文部科学省・総務省）
- キ 次世代育成支援の住民会議（総務省）
- ク 幼児教育・学校教育における地域と連動した体験教育の実施
（文部科学省・国土交通省・厚生労働省）
- ケ 学社融合型の学校の推進（文部科学省）
- コ 地域の思春期医学提供体制の整備（厚生労働省）

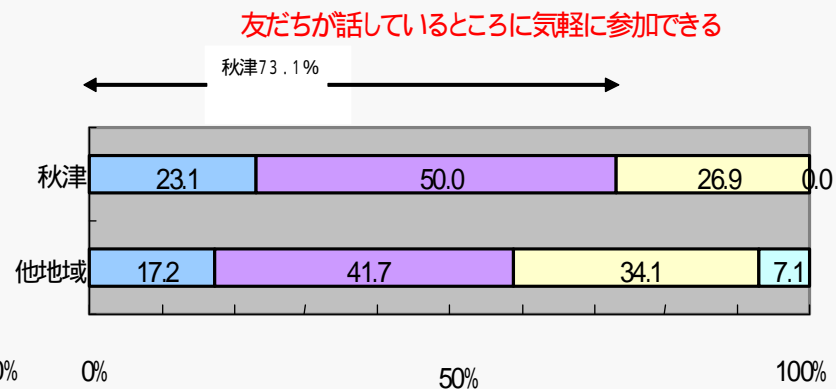
図4-16 学校と地域の連携（秋津小学校の例）

図4-16-2)-1 自尊感情

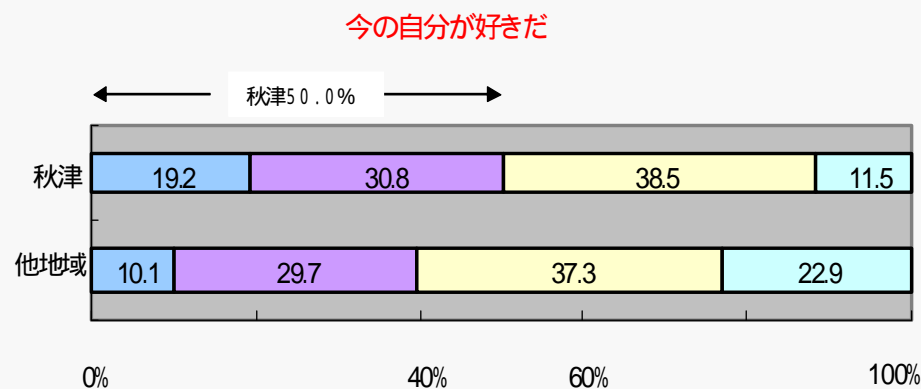
図4-16-2)-2 コミュニケーション能力



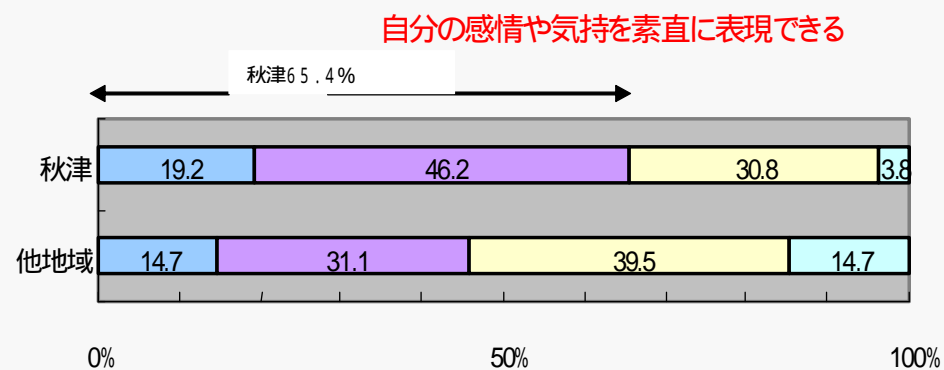
■ そのとおりだ ■ どちらかといえばそう ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない



■ そのとおりだ ■ どちらかといえばそう ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない



■ そのとおりだ ■ どちらかといえばそう ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない



■ そのとおりだ ■ どちらかといえばそう ■ どちらかといえばそうではない ■ そうではない

提言のポイント

組織的戦略

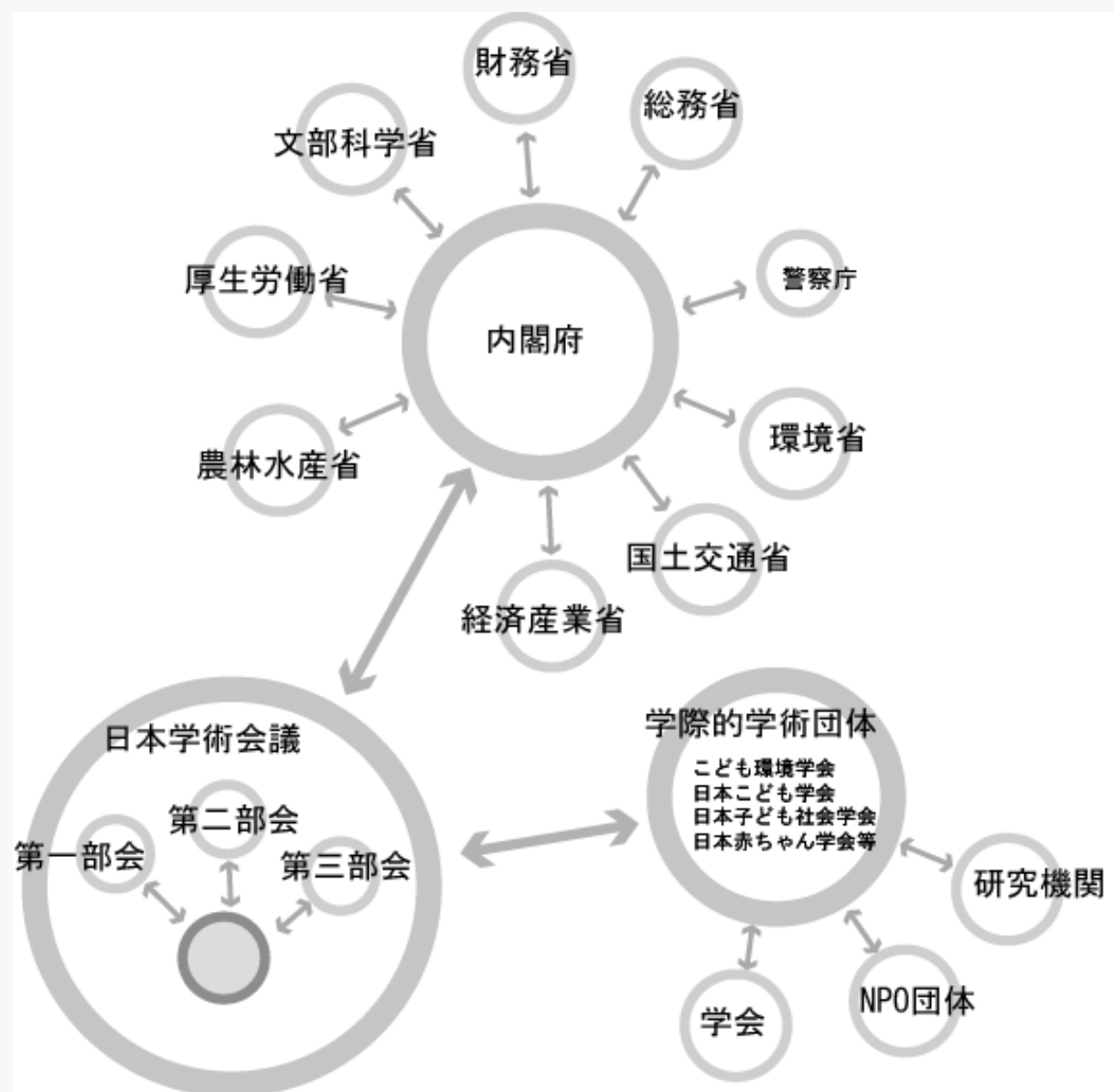
横断的な政策の立案・実行機能の強化

子どもに関するデータを一元的に収集し、公開するとともに、省庁横断的な内閣府の政策調整及び推進機能をより強化

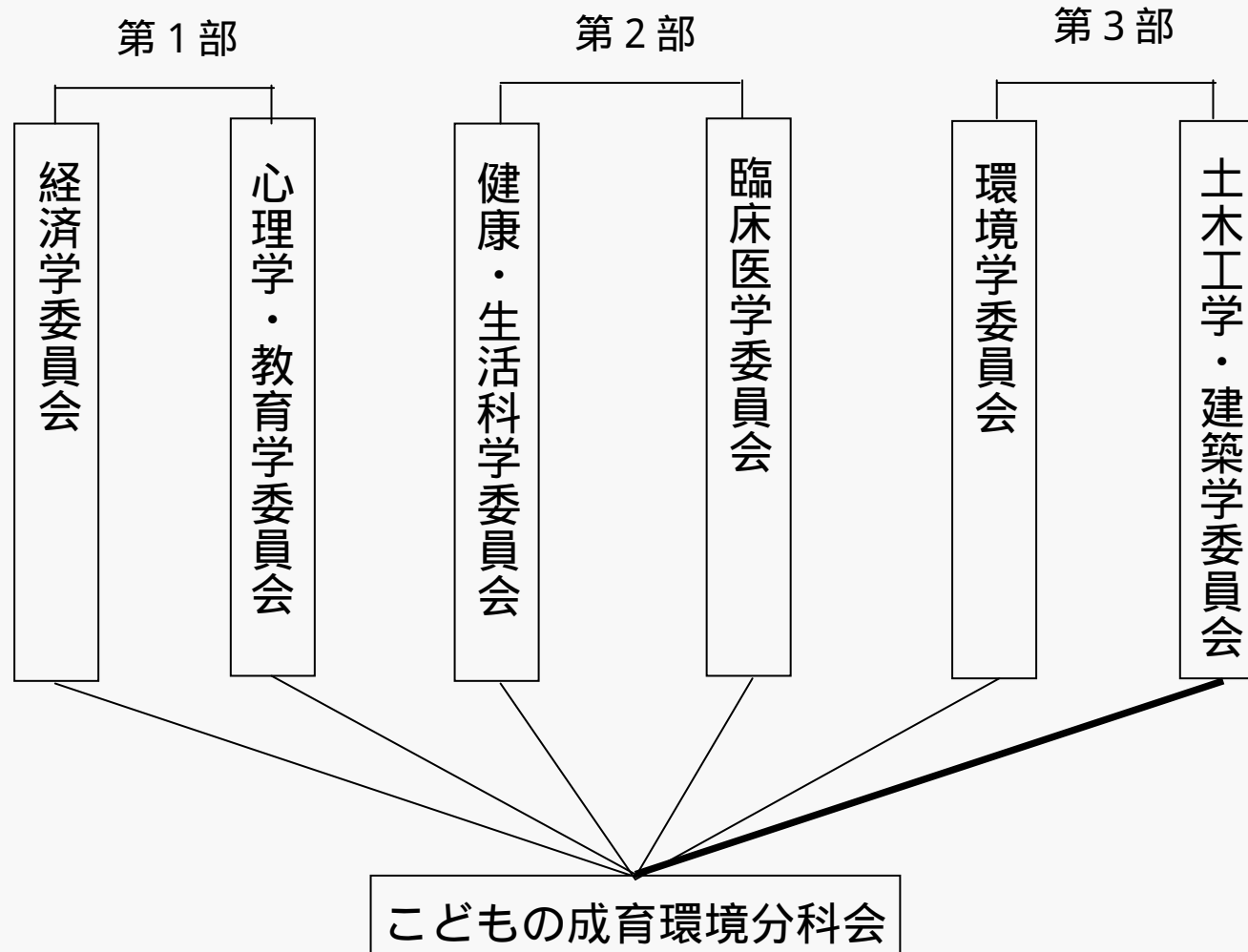
政策立案を支える学術横断的な体制と子どもの活力評価の検討

学術横断的な視点から子どもの成育に関するデータをレビューし、政府における政策立案組織を支えていく体制が必要

図4-18-0-1 行政機関と学術組織の連携イメージ（提案）



20期後半の子どもの成育環境分科会設置



今後の分科会における検討課題

期	主課題	親委員会（代表）
20期 後半	成育空間の再整備	土木工学・建築学委員会
21期 1年目	成育方法の適切な使用・学習	臨床医学委員会
2年目	成育時間の健全化	心理学・教育学委員会
3年目	成育コミュニティの再構築	健康・生活科学委員会